

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財)第五福竜丸平和協会 〒136 東京都江東区 夢の島3-2 都立第五福竜丸展示館内 電話 03-3521-8494

一月十八日、阪神大震災が起きた翌日、私は取材の為、被災地に入りまし... 焼津へ、日本山妙法寺平和祈念行脚

## マーシャル核実験被害の取材から

西文俊

間自身が引き起こす悲劇である。戦後生まれの私が、初めて多少なりとも戦争のもたらす結果を肌で感じた思いです。

と思うと同時に、私はマーシャル政府外務省高官が少し興奮気味にいった言葉が忘れられません。「もし、日本が戦争なんかしなかったら、ここで核実験など行われなかったかもしれない。」

(静岡第一テレビ報道部)

## 展示館の修理・拡充で新たな要請

一月二十五日、川崎昭一郎会長、猿橋勝子理事が、東京都南部公園緑地事務所を訪れ、展示館の拡充や修理、事務所の新設等について東京都に要請、懇談しました。

## 焼津へ平和行脚

二月十一日、日本山妙法寺の「九五年三・一ビキニデー平和祈念行脚」が第五福竜丸展示館で出発集



焼津へ、日本山妙法寺平和祈念行脚

「千人鶴の会」誓いのつどい 二月五日、みぞれまじりの冷たい雪が、久保山愛吉記念碑にも小さな雪だまりを作る中、記念碑前

のために、また事前の打ち合わせや学習、視覚施設の充実のため、展示館の拡充は急務になって

格的な修理が必要になっていきます。今回の要請は、三年前に協会が

「千人鶴の会」の青年男女で、毎月第一日曜日、記念碑前に被爆者の写真、原爆慰霊碑の写真

「千人鶴の会」の青年男女で、毎月第一日曜日、記念碑前に被爆者の写真、原爆慰霊碑の写真

## 協会理事会開く

一月二十五日、学生会館で協会の第一九回理事会が開かれ、当面の活動計画について審議

いる役割は高く評価していること、大切な施設の一つと認識しており、修理の緊急性と重点についても、

核兵器と科学者

原爆開発の興奮と痛恨 (1)

核エネルギー解放の前夜

小川 岩 雄

連載 2

科学者が軍事研究に協力させられ、重要な貢献をした例は昔から少なくない。むしろ産業への応用と並んでそういう貢献が期待されたからこそ、科学者の研究活動は封建領主や王室、国家権力や支配階級にしばしば手厚く保護されてきたとさえ言えるかも知れない。

例えば力学でお馴染(なじ)みの「放物体の運動」の解析は「弾道学」と呼ばれ、砲弾の命中精度の向上に欠かせなかったし、天体観測も艦艇の航行に必要であるとともに、占星術の形で軍事戦略の立案決定やその権威付けに使われてきた。近くは製鉄技術や軽金属などの進出も造船、航空機などの軍需が促したことは疑いない。

こうしてそれぞれの時代の最先端の学術的成果が、一見実用にはなりそうもない「純粹」で抽象的なものまでも、次々と軍事技術に応用され、斬新な兵器を生み出すとともに殺傷・破壊・焼夷(しょうい)能力などの性能を飛躍的に

向上させ、その大量配備によって戦争災害の規模と悲惨さを格段に増し加える結果を招いた。

その中で数百万、数千万にも及ぶ死傷のリスクなどの重大な犠牲を強いられる点で、いわゆる「前線」と「銃後」、兵士と非戦闘員(老幼、女性、患者、障害者などを含む一般市民)の差などなくならうとしている。核兵器こそはまさにその究極的な到達点であるといえよう。

それだけに、その開発を進めた科学者や、その原理や脅威の内容を知る科学者の社会的責任はかつてなく重大なものとなってしまった。

核兵器が核エネルギー(世間では普通「原子エネルギー」、「原子力」などと呼ぶ)を爆発的に取り出すさいの巨大な破壊力を利用する兵器であることはよく知られている。ここでいう「核」とは正確には「原子核」のことで、物質を構成する原子の中心に存在する微粒子をさす。

物質(例えば燃料や爆薬)は普通何種類かの元素の原子が結合した分子がたくさん集まってできており、これらが仲間どうし、または他の物質(例えば酸素)の分子と衝突して原子の組替え(化学反応)が起こるさいに、余った結合エネルギーが(あればこれが)熱(反応熱)の形で放出される。

しかし分子を形成する原子間の結合力はあまり強いものではないので、どんな物質を選んでも反応熱を何万倍、何百万倍と桁違いに大きくすることは全く望めない。

一方、わが長岡半太郎博士が一九〇四年にその存在を理論的に予想し、二年後に英国のラザフォードらが実証した原子核は、当初はそれ以上は分解できない「素粒子」だと思われていたが、間もなく陽子と呼ばれる正電気を帯びた素粒子数個と、中性子という電気を帯びていない粒子数個が結合した複合粒子であることが分かった。

そしてその結合力は分子を作る原子の結合力と比べて実に数千万倍も強いことが知られるにつれ、多数の原子核どうしを次々と衝突させ、核構成の組替え(核反応)を行わせれば、従来の化学燃料の数百万、数千万倍もの熱量が得ら

れるだろうとの期待が多くの科学者の間で高まった。太陽などの高温の星のエネルギー源は、まさにこのような核エネルギーに違いない、との学説が発表されたのもこの頃である。

しかし地上でどうやって「核エネルギーの解放」を実現するかとなると、これは一筋縄では行かない難題であることは、始めから明らかだった。というのは核は発見の当初から分かっていたように、元素によって程度に差はあるものの、いずれも強く正電気を帯びており、おまけに大きさ(半径)が原子の数千分の一と非常に小さい。そのため、二つの核が接近しようとする時、その間には猛烈な反発が働き、衝突するまえにコースがそれてしまうのである。

一方の核の外部からの電場で加速すれば少しは衝突しやすくなるが、それに必要な電力が反発で得られるエネルギーを遥かに上回り話しにならない。電気を帯びていない中性子を衝突させれば問題は解決しそうにも見えるが、そんなに大量の中性子を得るのに核反応を使えば、その電力がぼう大になる。見通しはひどく暗かった。

(立教大学名誉教授・協会理事)

人形劇を通して生き方を語ることに平和への原点になることを願って

黒 光 威 夫

日本原水協マーシャル代表団の核実験被害調査と現地島民との交流を紹介した「失われた楽園・ビキニ核被爆から四十年」(日本TV昨年十二月十八日放映)の番組は、ビキニ被爆の恐ろしさの実態を今の問題として改めて強烈に訴えるものでした。

実験前、二月七日のロンゲラップ島の話思い出しました。同島にマーシャル諸島信託統治政府から一人の役人が来て「ビキニ環礁で核実験が行われるだろう」という口頭の説明。議員からは正確な実験日/実験による影響/予防策などの疑問が出されたが「四六年の実験の百倍もの威力がある」というのみの回答をして10分ほどで役人は帰っていった。そして実験当日、すさまじい様子につづいて、「子どもは白い粒子を手ですく

く上げてたわむれていた。夕方、島民は激しい痛みを襲われ、子どもたちは泣き叫び体を引っかき、足をバタバタさせ、体をよじ曲げ、

転げ回った。翌日の夕方、水上飛行艇が飛来。三人の外国人が来る。ホース状のものを機械に取り付け給水タンクに入れた。カチ、カチ、カチ、と連続音。すぐに飛行艇で飛び去った。一体今、島民はどういう状況に置かれているのだろう、何も分からない。(小学校長だったバリエット・エドモンド氏の手記より抜粋)。

「第五福竜丸」の帰港地だった焼津港を私が訪れたのは七五年のビキニデーの集いに参加したときでした。まだ私が京都大学工学部原子核工学教室に勤務し放射線を取り扱う仕事をしているときでした。このときの焼津港はのどかな雰囲気でしたが、被爆した福竜丸が入港したときの光景を想像すると悲しみに怒りが込み上げてきました。私のなかでビキニ事件への関心が深まっていくなかで、福竜丸を主題にした人形劇があることを知りました。人形劇団京芸が七六年のお正月公演で「ゆめの島の

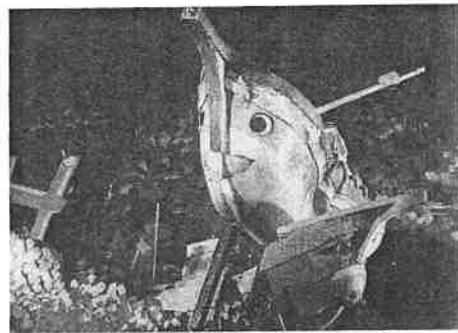
白いふね」を上演するというのです。今風にいうなら「ウソッ! 福竜丸事件が人形劇になるなんて!」といった心境でした。さて、その舞台のラストシーン……。

夢の島でクサリにつながれた白い船が少しずつ泥海に沈んでいきます。木造のイカ釣り船、お福丸が近づいて

お福丸「お前、沈んじゃいけない。さあ、早く泥水をかい出さなきゃ」

白い船に住んでいたネズミたちも船の穴をなぞそうとがんばるお福丸「さあお前、わしの体の上のるんだよ。いいかい、さ、えんりょうなく」

白い船「どうしてそんなこと」



人形劇「ゆめの島の白いふね」

お福丸「いいからさ、お前は信号を送るんだよ。もうすぐみんながやってくるよ。お前の信号をききつけて」

白い船、信号を発する  
♪私はここに 泥の中にいます  
♪三千度の熱い光を 体にうけた  
♪私の話を 聞いてください  
♪私の声を 泥の中から  
♪私は言います

白い船を隠そうとする権力への怒りとそれを突き飛ばそうとする人々の力強さを感じ、本当の白い船に会いたくなくなり七九年夏、夢の島の第五福竜丸に会いにいきました。展示館の中で遊んでいるスズメたちが印象的でした。スズメたちは外へ出たときも福竜丸や平和の話をしながら飛び回っているのだらうと楽しくなりました。

楽しさの勢いで、八十年五月人形劇団京芸に私は入団しました。今年四十六周年になる京芸は人間らしさを追求する人形劇を創りつづけています。そして、日常の生活空間に人形劇文化の存在価値が広がることも願っています。人形劇を通して、みなさんと生き方を語り合うことが平和への原点にもなると思います。そして、スズメたちとも語り合いたいです。

(人形劇団京芸)